学術情報流通推進委員会（SPARC Japan）について

国立情報学研究所/学術情報流通推進委員会委員長
武田　英明

CC BY

SPARC Japanの始まり

1990年代から学術雑誌の電子化が進展し，研究成果の流通形態が急激な変化を遂げる中で，日本の学術雑誌の電子化，国際化等への対応が十分とはいえない状況が続いていた。

日本の学術雑誌の国際的知名度が低く，国際的流通が不十分

日本の電子ジャーナル化への対応が未熟である

電子ジャーナルのビジネスモデルが未発達

研究成果の発表が海外の学術雑誌に流出している

日本の研究成果が十分に流通していない可能性がある

学協会の学術雑誌の安定的な発行が困難になっている

日本発の学術雑誌，特に英文論文誌を電子化するとともに，これらを安定的に発信できるビジネスモデルを創出し，日本の学術雑誌の海外への認知度を向上させることを目指して，活動することとなった。

学協会等とのパートナーシップ

国内学協会等の電子的出版支援

1

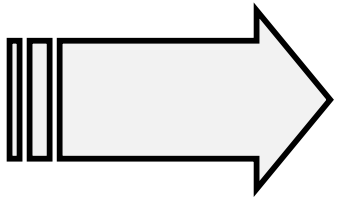
・関係団体及び学識経験者による評議会を組織し，支援すべき学協会や学術雑誌を募集　→　45誌が選定された

2

・科学技術振興機構，大学図書館と協力して，学協会誌の電子ジャーナル化・電子投稿システムの導入等を支援

3

・電子ジャーナルパッケージの形成や，大学図書館とのサイトライセンス契約によるビジネスモデルを構築



- 英文電子ジャーナルの国際化
- 認知度の向上
- 電子ジャーナルビジネスモデルの確立

これまでの活動概要

	第1期 2003～2005年度	第2期 2006～2008年度	第3期 2010～2012年度	第4期 2013～2015年度	第5期 2016～2018年度
事業参画誌の募集		パートナー誌：45誌			
電子化支援		全てのパートナー誌が英文EJ化 (うち13誌はEJ-only)			
合同プロモーション		国内外での学会誌出展活動			
セミナー開催	2005より実施 （10回開催）	2006～2008 （22回開催）	2009～2012 （30回開催）	2013-2014 （13回開催）	2016-2018 （10回開催）
ニュースレター		2009年2月創刊			2018年度末に 36号まで刊行中
国際連携活動		2006 米SPARCとMoU締結	SCOAP^3，arXiv.org等連携協力		

第5期（2016～2018年度）の活動まとめ

1. 国際的なOAイニシアティブとの協調
   - arXiv，CLOCKSS，SCOAP^{3}といった活動を支援する，国内参加機関のとりまとめや海外との窓口対応の役割を果たした。

2. 学術情報流通にかかわるアドボカシー活動
   - SPARC Japanセミナーを通算10回開催した。
   - 2016年からは英文のwebサイトを公開し，さらに2017年からはセミナーの動画中継を開始したことで，国内外の参加者に向けた本セミナーの情報発信を強化した。

3. オープンサイエンスへの活動スコープの拡大
   - CERN，NII及びKEK間で締結された協定に基づき，NIIの実務研修制度を利用して，大学図書館員2名がCERNにおいてキュレーションの作業に従事した。

4. オープンアクセスに関する基礎的情報の把握
   - 「オープンアクセスジャーナルによる論文公表に関する調査」に協力した。

新しいフェーズに向けた検討（2018年度）

2018年度SPARC Japan運営委員会（全3回） 検討の要旨

- 学術情報流通における潮流の変容に応じて事業内容の見直しが行われてきたが，第5期の終了にあたり，特定の事業ではなく，ステークホルダー間の連絡調整を行うことによって，学術情報流通基盤整備を推進するという役割に大きく舵を切ることとする。

- そこで，活動方針を策定する主体の名称を国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会から学術情報流通推進委員会へと変更し，これまで同様，基本方針に基づいて活動を行うこととする。

学術情報流通推進委員会の基本方針

- 近年の情報通信技術の進展に伴い，学術論文のオープンアクセスに加えて，研究データを含めた研究プロセスのデジタル化と共有に取り組む，オープンサイエンスが国内外で進展しつつある。

- 学術論文や研究プロセスの相互利用の促進は新たな知の創出にも資することから，学術情報流通推進委員会の 第1期においては，オープンアクセス，オープンサイエンスを推進するために，国内外の学術情報流通の動向や実態の把握に努め，それらに基づいた学術情報の公開や利活用に係る戦略の検討と 調整，アドボカシー活動等を，学術コミュニティ等を中心としたステークホルダーの参画や連携のもとに行う。

活動内容（詳細）

1. 国内ステークホルダーとの協調

「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」，JUSTICE，JPCOARはもとより，学術コミュニティのステークホルダーを広く結集して，学術情報流通に係る国内外の動向や実態の把握，学術情報流通のあり方に係る意見交換を行う。

（具体的なアクション）

- 学術情報流通推進委員会を開催し，ステークホルダーと情報を共有する。
- 国内外のオープンアクセス・オープンサイエンス推進のための戦略を検討する。

2. 国際協調に係る戦略の検討と提言

SPARCと連携して諸活動を展開する他，学術情報の公開や利活用を促進する国際的なイニシアティブに対応する国内コンソーシアムを支援する。当面はこの機能を維持するものの，国内コンソーシアムの自立的運営も促す。また，国内の学術情報流通に係る現状を踏まえつつ，国際的なイニシアティブへの対応に係る戦略を検討する。

（具体的なアクション）

- 国内コンソーシアムとともに，国際的なイニシアティブの窓口対応（参加の取りまとめや会費の支払い等）を行う。

活動内容（詳細）

3. アドボカシー活動の実施

学術情報流通に係る様々なステークホルダーを対象に，国内外における動向や実態，研究分野における特性等も踏まえて，学術情報の公開や利活用の推進に向けたアドボカシー活動を行う。

（具体的なアクション）

- SPARC Japanセミナー企画 WG を設置して，当該年度に開催するセミナーを企画する。
- 学術情報流通に関するトピックを選び，それに関する情報提供を行う。

4. 学術情報流通の動向に係る調査の提言

我が国における学術情報流通のあり方を検討するために必要な，国内外の学術情報流通の実態・動向に係る調査の提言を行う。また，実施された調査結果の共有を図り，それに基づいたステークホルダーの役割や連携の在り方についても，提言を行う。

（具体的なアクション）

- OA2020 に関する国内の学術情報流通に係る調査を企画・提言する。
- 提言に基づいて得られた調査結果の共有を図る。併せて，それに基づいたステークホルダーの役割や連携の在り方についても，提言する。

まとめ

- SPARC Japanは，日本発の学術雑誌，特に英文論文誌を電子化するとともに，これらを安定的に発信できるビジネスモデルを創出し，日本の学術雑誌の海外への認知度を向上させることを目指して，2003年にその活動を開始した。

- 2010年頃より，「我が国の特色に見合ったオープンアクセス（OA）を実現する」をかかげ，学協会との連携に加えて図書館にも軸足を置き，アドボカシー活動（セミナー），国際的なOA活動との連携・協力を行ってきた。

- 2018年度にこれまでの活動を見直し，オープンアクセスやオープンサイエンスに係るステークホルダー間の連絡調整を行うことによって，学術情報流通基盤整備を推進するという役割に舵を切ることとなった。

- それに伴い今後は，活動主体の名称も国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会から学術情報流通推進委員会へと変更して活動を継続する。